



KAGAWA DOYUKAI

時代を切り拓いた企業家たち
～ 40年の歩み～

since1976

企業
づくり

2
CHAPTER



林 哲也

活動の変遷とこれから

経営労働委員会／高松第4支部
香川県ケアマネジメントセンター(株) 代表取締役

香川の経営労働委員会の歴史的転換点は十年前の二〇〇五年です。それは、滋賀同友会で開催された「経営指針を創る会」に一名の受講生と二名のオブザーバーから始まりました。

経営者同士が「労使見解」の学びを自社経営にあてはめ、相互に「何のために経営をしているのか」を徹底的に議論することは新鮮でした。

■「成文化から実践」へと発展した「経営指針を創る会」

二〇〇六年に、滋賀の方法をそっくり真似て「第一期経営指針を創る会」が開催され二〇一五年で十一期となりました。

香川の「創る会」は、中同協が提起した「成文化から実践へ」をふまえて、第一講で自社経営数値の確認、期中の社内発表実施など独自の具体化と発展を重ねてきました。結果、受講生から香川の経済界に名だたる経営者が生まれたことは貴重な成果です。

■『企業変革支援プログラム』① 策定への貢献

中同協が発行した「企業変革支援プログラム」ステップ一とステップ二は、同友会の理念をわかりやすく展開したものです。

この中同協の取り組みと平行して自発的に「特別委員会」を編成し「企業変革支援プログラム・香川版」の作成に取りかか

りました。

この委員会には高松大学教授の田中嘉穂先生、同、岩田一哲先生にも参画していた。二〇〇八年に発表されました。

その後、中同協のプログラム作成に参加し、独自に作成した経験が生かされました。

② 歴史と現状

同友会の理念をわかりやすく展開し、自社の到達点や変革の道筋を見える化するために、中同協が発行した「企業変革支援プログラム」ステップ一とステップ二は、極めて有益です。

この「企業変革支援プログラム」は、中同協の取り組みと平行して香川県でも自発的に「特別委員会」によって「企業変革支援プログラム・香川版」を作成し、貢献した歴史があります。

二〇〇九年三月に発刊された「企業変革支援プログラム」ステップ一は、edoyu上のシステムに登録することができ、業界別、創業年数別など細かに比較分析が出来る機能を持っています。中同協は、毎年十一月から十二月を「登録月間」として位置づけて登録促進を呼びかけてきました。

全国の販売数が二万三四六七冊、登録状況は、二〇一五年末で一七四五社です。香川での販売数が六一六冊、四十八社です。本格的普及・登録という点では「これから」という状況です。

③ 先進性と可能性

経営者には「企業」の全機能をフルに発揮させて、企業の合理化を促進して生産性を

高め、企業発展に必要な生産と利益を確保するために、全力を傾注」する責任があります（「労使見解」）（二）経営者の責任）そのためには、まず経営者が自社の「全機能の状態」の把握をする必要があります。自社の状態を、定性的、定量的に把握するためのツールが「企業変革支援プログラムステップ一」です。

「企業変革支援プログラムステップ一」を社内のメンバーと定期的に診断活用することで、社内の企業変革への共感や理解が促進され、経営方針として反映されます。

「企業変革支援プログラムステップ二」の自己分析シート優先順チェックシートを使って、緊急性、重要性、実践容易性の尺度で整理し、経営課題を抽出します。ここで明らかにされた強み、弱みを経営課題として問題意識をもって知ることは、解決方法を常に求め続けることにつながり、「経営指針」を成文化していく上でとても重要です。

④ 自社におけるプログラム活用

昨年、当社では、幹部研修会で上野準一副代表を講師に招き「労使見解」を解説してもらいました。その後、全員参加で支援プログラムを実施しました。

設問への回答の際は単なる採点ではなく「なぜこのレベルを選択したか」「どうすればレベルがアップするか」も記載し、経営指針書に診断結果と意見を反映しました。

⑤ 新たな「企業変革」のうねり広げるツール

香川同友会の歴史を振り返れば「労使見

解」に示される「人間尊重の経営」をめざす経営の追求の時代から、バブル期前後の「知りあい・学びあい・助け合い」を追求する傾向のある時代がありました。

四十周年を迎えた今日においては、「企業変革」に真剣に取り組む経営の追求の時代に向かつて、大きな役割を発揮すると期待されるのが「企業変革支援プログラム」です。

■労働環境整備・就業規則と経営の関係

二〇〇八年の「リーマンショック」は、香川の地域経済にも影響を与えました。逆境から復活をめざす経営者の実践として、中同協の経営労働委員会、(株)ビルドの吉田尚樹氏が経営体験を発表しました。

厳しい経営環境のもとで、労使が就業規則のひとつひとつを確認し、信頼の回復に努力し、結果、業績回復・前進をした報告でした。他の受講生の企業も含めて、社員をパートナーとして位置づけ、「人を生かす経営」に向かつて努力を続ける実践が広がりました。

■運営の根底に流れる「労使見解」への確信

香川の経営労働委員会の十年間の歴史は、「労使見解」の実践を追求した歴史です。同時に、現状は「発展の方向性が見えてきた」という段階です。

今後の十年は、「労使見解」を全会員が理解・実践し「入会して良かった」「会社が良くなった」と言える同友会づくりの中心的作用を担い続けます。

「経営指針を創る会」の修了生数

期別	第0期	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期	第11期
修了生	1	8	10	8	25	23	27	10	15	23	13	16

支部	高1	高2	高3	高4	高5	高6	高7	高8	高9	東讃	小豆島	中1	中2	三豊	合計	その他
修了生	10	9	1	20	30	6	17	13	9	6	3	12	31	9	176	4

経営労働委員会 経営指針成文化運動

出席

ワイビー(株)
取締役会長

野田 勝利 氏
(経営指針を創る会 校長)

香川県ケアマネジメントセンター(株)
代表取締役

林 哲也 氏
(第31期委員長)

三有研器(株)
代表取締役社長

有岡 信次 氏
(第32・33期委員長)

(株)みつば
代表取締役

太田 勝英 氏
(第34・35・36期委員長)

(有)アドバンスカンパニー
代表取締役

浮田 幸治 氏
(第37・38・39期委員長)

松田哲也税理士事務所
所長

松田 哲也 氏
(第40期委員長)

司会

香川県中小企業家同友会
事務局局長

宮下 幸雄 氏

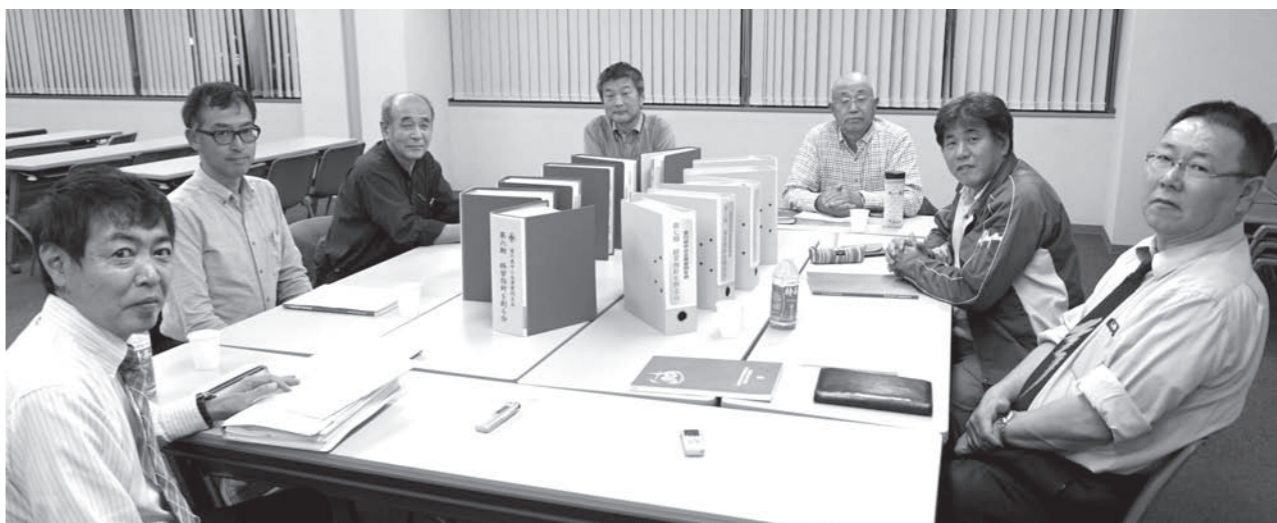
ともありましたが、本講の二〜三日前に理念ができました。補講ではかの受講生の助言をする中で、自分の腹に落ちるものがありました。

宮下 野田さんが終了するにあたり、滋賀方式を香川に取り入れようと、まずは「助言者養成講座」を開催し、第一期を迎えることになったと思います。太田さんと有岡さんが受講してその後、助言者として参加していただきましたが、第一期とその後の様子について何か違いのようなものはありますか。

太田 今改めて振り返ると、それ以前にも経営指針作成セミナーに三〜四回参加し



有岡 信次 氏



野田 勝利 氏

たと思いますが、理念がしっかりできるところまでには漕ぎつかず、難しいなと思っていました。創る会第一期では、今までのスクール形式と根本的に違い、同じ同友会の仲間が助言者として参加するスタイルなので、参加することだけでなく、与えられた宿題をきちんとしていかなければ助言者に申し訳ないと思うプレッシャーを感じずにはいられません。自分にはそのプレッシャーが結果的にはよかったのかという思いはあります。

有岡 自分が受講した時のことはあまり覚えていません。助言者時代の方が印象深く二期〜四期あたりの助言者は少なかったですが、受講生との数的なバランスもよく

創立四十周年を記念して、経営労働委員会では「経営指針成文化運動」について、第三十一期から第四十期までの経営労働委員長に当時を振り返っていただき、導入の意図や準備、内容の変遷と成果、今後の課題などについてお話をいただきました。

* * *

宮下 経営指針の成文化運動を振り返ると、第二十六期から本格的に全県行事として「経営指針成文化運動」を始めました。セミナーなど手探り状態で成文化に特化するというよりも、とりあえず文章化するというやり方で委員会での方法の見直しを検討していました。ちょうどその頃、視察を兼ねて滋賀同友会の経営指針を創る会に野田さんと林さんが参加し、香川の「経営指針を創る会」の歴史が始まりました。

林 滋賀同友会の経営指針を創る会に参加して思ったことは、「同友会とはいったい何なのか」、「自分の会社が目指すものは」とか「自社の役割は」ということについて議論をするから自分が気がついていないこともわかってくる。それに比べれば、それまでの香川同友会の運動は一日でやってしまいうので言わば「清書をする運動」かな。経営姿勢や経営者としての生き様の部分は、さらっと流していたように思います。

野田 私は、どうせ参加するならと受講生として参加しました。あまりにも不出来で「野田さん、もう帰ったら」と言われたこ

会社を十分理解した上で受講生にピタリとくつきながら進められたので、失礼があるかもしれないが楽しかったような気がします。

宮下 ○期〜二期あたりは会員訪問しながら家族的な雰囲気のある会という感があつたように思われます。浮田さんが受講された五期は爆発的に受講者が増え始めた頃だったと思いますが…

浮田 同友会に入ったら創る会に入らなければならぬやろ！といったような感じがありましたね。

宮下 松田さんは、五期からずっと助言者



宮下 幸雄 氏

として参加されていますが、いかがですか。

松田 助言者として回を重ねるごとに自身も指針書の大切さというものがわかってきたというところ。成文化運動が進む中、いつの頃か「実践」という言葉が使われだして、指針書の更新が実践なのかというくらいでした。昨年、中同協の経営労働委員会において「指針で掲げた企業像に近づくための成果を伴う具体的行動」と定義づけられ、私もそれだということ。今期からは、一人ひとりの受講生にとって成果を伴う具体的行動というものが何なんだろうかと考えるようになってきました。

宮下 五期、六期あたりは爆発的に受講生が増えた結果、問題としては助言者が



太田 勝英 氏

確保できませんでした。反省点として受講生と助言者の比率から一体感が薄れ、創る会全体で受講生をフォローするという今までのスタイルは崩れてしまったわけですが、当時の委員長の太田さん、創る会に対しての悩みとかがありましたか。

太田 ずっと悩んでいましたね。助言者の方が来てくれるかどうかということもありましたし、実践がどうかということについては当時ずっと問われていたと思いますし、自分自身も実践について悩んでいた時期でもあったので、創る会の運営と自社の運営と非常に悩んでいた時期だと思います。

宮下 林さん、いかがですか。

林 それぞれの期で課題を抽出し徐々にではありますが、それに対して対応を考え発展してきています。八期では最終講を迎える前に社内発表を導入しました。それは他県では珍しいことで、中同協の言う実践する指針書づくりではありませんが、香川独特の発達過程でより実践的であったと感じています。

宮下 そういった意味では八期からが取組内容が大きく変化してきたように思えますが、いかがでしょうか。

浮田 企業訪問が始まったのも八期くらいではなかったかと思えます。一部のグループの中で企業訪問が始まり出し、それが全体の流れになっていきました。

て「後継者としての位置づけ」や「一人経営者に対する受け入れ方」などがあると思います。

有岡 一人経営者のなかには、指針書を創るにふさわしい経営者もいるわけですから自分の考え方をしっかりとってお客さんに対する接し方とか、ゆくゆく会社を發展させていく経営者を創り、後継者や従業員を沢山雇いたいという意思がある方については、門戸を広げて勉強して頂きたいです。

野田 事業承継の時期がはっきりしないので受講する後継者というのは、助言者としては骨が折れます。相当時間をかけて助言を一生懸命してきて、行きづまりながらも何とか終了したという事例が過去にあるように、そこをなんとかしないと関わってきた皆さんも辛いと思います。創る会に参加するにあたっては、三期分の決算書など先代が後継者に全てを託して受講させて頂きたいです。

松田 中同協の定時総会の議案書の中に「同友会らしい経営指針にもとづく人を生かす経営の総合実践」というのがあり、それが一番もともとだと思いますので、とりあえず理念だけを創りたいという方もいると思います。それは県単位の創る会で取り組むべきものか、その辺の方向性については今後の課題になってくると思います。

林 課題で感想文を毎期書いてもらっていますが、「人を生かす経営」、「同友会三つ



松田 哲也 氏

松田 今期から助言者の参加資格に「指針書の更新」を導入しました。実際更新している人が何人いるのかという不安もありましたが、指針書を更新するために助言者として参加したり、なかにはもう一度創り直してみたいといった方が毎回受講してくれました。また、最終講で助言者が自身の指針書を基にその取り組み方などについての発表をしましたが、そのことも受講生に刺激になったと思います。

宮下 九期〜十一期にかけて、ある程度香川独自のスタイルが固まってきたと思いますが、それを踏まえて今後に向けての課題のようなものはありますか。

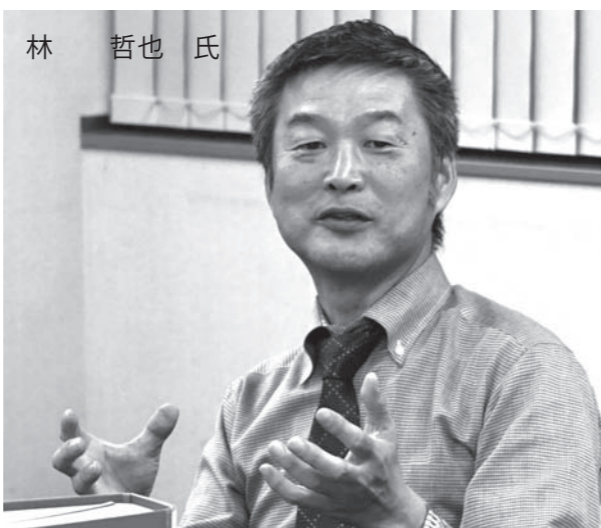
松田 現状の課題としては、受講資格とし

有岡 今期、息子が受講しましたが、受講生や助言者が大勢工場に来てくれて、受講生同士でディスカッションしながら創っていたようでした。「若い社員が集中して頑張って仕事を頂いていることに感動した」と皆さんから話を頂き、私自身改めて真面目にしているなあと従業員を見直しました。

林 今期の事前講で数字の勉強会を開催したこともよかったと思います。今まではどの誰かわからないレベルで講を進めて最後になって数字を見て、「それではいかんや」ということになったりもしていました。事前にこの人は数字がわかっているのではないのだということを知っておくことも大切だと思います。



浮田 幸治 氏



林 哲也 氏

の目的、「自主民主連帯」など基本的な部分についてどこかで議論しようと思いません。

宮下 そのあたりを課題ということで検討して頂きたいと思えます。最後をまとめて林さんいかがですか。

林 こうして振り返ると、滋賀同友会の創る会が香川の原点になったと思います。そして今や全国に引けを取らない成文化と実践運動が香川に根付き、さらに香川独自の取組みもされるようになってきました。それは、皆が回を重ねるたびに頑張つて知恵を出し合い、取り組んできた結晶だと思えます。

4th term representative



第4期代表 中讃第2支部 (株)京蔵 専務取締役 **京兼 慎太郎**

経営指針を作る会に参加しての 気づきと学び

以前の自分は他人に心を開かず、他人を責めてばかりしており自分の過ちを認められず、社員もついていきかねる性格でした。
そんな私にさえ、助言者の皆様は自分の事のように、私の会社の事・私自身の事を心配してくださり、その気持ちに少しづつ言葉を聞き入れるようになっていきました。
そこで気づいた事は、一人では何もできないという事。そして自分はそのままでいた人格ではないという事でした。

自分の心がけ次第

経営理念を成文化してから様々な事が変わりました。でもそれは全て私自身の心根が変わっただけなのだと思います。ただ、それだけで、私自身の行動が変わり、そうすると職場環境が変わり、そして会社の業績が変わりました。

人の縁は良くも悪くも左右されますが、どう思うかは自分の心がけ次第だと思います。

成文化してからの自社の取り組み

良い事だと思ふから良く、悪い事だと思ふから悪く、良い事ばかりだと思えば悪い事もまた良く、日々が学び深くなる。



自分を成長させてくれる最大の糧であると思います。
今では毎年、会社の成長・社員の成長・お客様の成長を心から生きがいであると感じています。そう思えるようになったきっかけを与えてくださった「経営指針を作る会」には心から感謝しています。

1st term representative



第1期代表 高松第5支部 (株)スカイファーム 代表取締役 **川西 裕幸**

会社のお客様は誰？

高松市飯田町でイチゴの栽培・加工・販売を行なっている(株)スカイファームの川西裕幸です。私は平成十年に脱サラしてイチゴ専業農家になりました。
当時100%市場出荷をしており、バブル崩壊の影響で市場価格もずっと右肩下がりでした。朝から晩まで仕事をしても利益が出ず、好きで始めた農業も希望が持てずいつもモヤモヤしていました。
同友会は同じ地域の先輩経営者に誘われました。異業種が集まる同友会に入会したら経営が良くなるのではないかなと思い入会しましたが、入会して例会に参加しているだけでは経営は良くなりませんでした。

入会して一年ほどたったとき、香川で「経営指針を作る会」がスタートするという話しを聞きました。オリエンテーションに参加した時に先輩会員から「あなたの会社には経営指針書がありますか？」「あなたの会社のお客様は誰ですか？」と聞かれました。それまで農業界では経営理念・経営方針・経営計画なんて聞いたことがありませんでした。お客様は、農協集荷場の人か市場のセリ人だと思っていました。まったくお客様の顔が見えていませんでした。だから理念なんて考えたことも無かったし、一日中作業に追われて中長期の方針なんて考える余裕もありませんでした。

新たな夢に向かって

経営指針を作る会に入って一番良かったことは、自己と向き合う時間が持てたことです。「何のために経営(農業)をしているのか?」「お客様は誰ですか?」の問いかけに、農業を始めたころの想いがふつふつと湧き上がってきました。地域のお客様に私が育てたイチゴを食べ喜んで欲しい!原点を思い出すことが出来ました。

現在は、雇用も増え新たな夢に向けて顔の見えるお客様への販売モデル確立と、同友会企業と連携して新しいビジネスモデル作りにチャレンジしています。



経営理念

味と香りにたくして未来に繋ぐ和心を伝える

経営理念

私達は農業を通して心ゆたかな生活を創造します

7th term representative



第7期代表 高松第5支部 (株)三好製作所 代表取締役 **三好 幸司**

6th term representative



第6期代表 高松第5支部 (株)日協堂医療器 代表取締役 **喜井 規光**

仲間の一言で

第六期経営指針を創る会への参加は、不安感や忙しさ等、参加できない理由をたくさん並べてなかなか一歩目を踏み出せませんでした。そんな時、同じ支部の仲間の「今、受けな男ちゃうで」の一言で参加することを決めました。

自分自身のやりがいを感じ

当時社内では、挨拶などの「当たり前のこと」の実践を心がけていたので、せつかく参加するなら、全行程参加して宿題を期限までにする！課題は職員の見解を聞き一緒に作成する！を目標にして取り組みました。

期限を守るためには、予定を立て、会議の場を設定し、意見をまとめていく作業が必要でした。これを意識することで、より深く議論でき、職員の考えを理解し、自社の特色が見えてくるようになりました。

また職員の表情が生き生きとし、その表情や目の輝きに自分自身のやりがいを感じ、このために経営しているのだと実感することができました。

計画を振り返る

今期で五期目を迎えています。毎年指針書を作成することでステップアップしてきています。指針書の作成・発表会を実施し、長期・中期・短期の計

問いと向きあった半年

私が経営指針を創る会を受講したのが、二〇一二年。あれから、はや四年が経ちました。

「自分はなぜ経営をしているのか？」この問いと向きあった半年。この半年ほど、自分と向き合った半年はありません。非常に苦しい半年でしたが、今の会社があるのは、この半年のおかげといっても過言ではありません。

成文化後の変化

経営指針を創ったことで、出来た小さな自信。対外的にも自社の経営理念をアピールすることで、自然と自社に合った仕事が増えてきたように感じます。社員雇用の際も、支えとなったのは経営指針でした。「私はこんな思いで経営をしている。一緒にやりませんか？」という私の思いに賛同してくれたのが、今の社員です。

もちろんその後の社員教育においても中心となるのは経営指針書であり、これからこの会社はどういう方向で進んでいくのか。そのために今年どういった取り組みを行うのか。そういった具体的な会社の計画・ビジョンもこの中に入ります。

画を立て周知しています。

また計画をやりっぱなしにするのではなく、半年ごとに各拠点で事業所ごとに実践報告会を行い、自分たちの計画を振り返り、できる事とできない事を明確にしてアウトプットすることで次の計画に活かしています。

他にも各種委員会や研修会等開催したところ、社内の雰囲気も良くなり、目標や方向性を共有できています。仲間が増え、協力者が増えてきました。

まだまだ課題が多くありますが、チャレンジを続け生成発展を繰り返していきたいと思えます。



未来予想図

年を追うごとに中身もブラッシュアップされ、経営指針書の精度が高まっていることを実感しています。

もっともつこの経営指針書を作りこんでいき、自分と社員の夢をのせた会社の未来予想図となるよう、高めていきたいらと考えています。



経営理念

思いやりある情報社会の創造

経営理念

美しい心を育み、いい会社（施設）を目指します。

11th term representative



第11期代表 高松第5支部 (株)三溪設備 常務取締役 渡邊 光一

言葉だけでなく示したい

第十一期経営指針を創る会に参加したきっかけは、例会のグループ討論などいろいろな方と関わることで経営指針の必要性を感じ、「いつか自分も創りたい」、「自分の代になったら創ろう」と考えていました。

そんな中、同友会の先輩に相談した時に「経営指針なんてすぐにできるものじゃない。来期の創る会にすぐ参加しなさい」と言われて頂いた事から参加することとなりました。

今までは社長の言葉として一年に数回、全員が集まった時に言葉で伝えていました。ただそれだけでは社員一人一人まで浸透することがとても難しく、時には上手く伝えれていないなど感じることもありました。

その中で、社長の思い、後継者としての思いをしっかりと示し、社員へ今後の会社の方向性や会社の存在を言葉だけでなく、成文化して示したいと感じて飛び込みました。

早い段階ですべてを出すこと

青年部メンバーも多く参加していたこともあり、とても支えとなりました。第一講の合宿では、課題報告後の夜は寝れずに悩んでいる方や、懇親会の場に助言をいただくために紙とペンを持ってくる方、二日目の朝には許容範囲を越えて壊れかかった方などがいました。

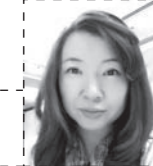


「早い段階ですべてを出しなさい」と言われたことは、今思い返せばそうしないと会社のことをほんとうに見つめ返せなかったからだと感じています。

進むべき道

半年間同じグループでともに考えた仲間、これからはしっかりと経営者が進むべき道を示し、社員と共に成長して皆さんの生きる(活きる)場所をしっかりと支えていきます。

9th term representative



第9期代表 高松第7支部 (株)橋本薬局 取締役 橋本 亜紀

心の支えとなる理念を求めて

先代から急に引き継ぐことになった会社。数年かかっても借金返済し終えたという燃え尽き症候群のような症状がでるようになってしまいました。

こんなことでは社員を守れない。「心の支えとなる理念」を求めて入った第九期経営指針を創る会。

楽しみにしておりましたが、助言者からの厳しい質問。自分をさらけ出して話したつもりでも、毎回、山ほどの宿題と共に帰宅。

自分のことは案外わからないものでも、隣で怒られている同じ受講生の強みはわかりました。私たちは、お互いアドバイスしあったり、一緒に宿題をするようになっていきました。

厳しくも愛のある助言者

忘れられない思い出は、私の理念を聞いて涙ぐんでくださった助言者の方でした。

厳しくも愛のある方々でした。そのときいただいた数々の言葉を、数年かかって実行に移している最中でもあります。

社内の経営指針発表会では、社員の発表が年々グレードアップしていて、その成長に驚き、うれしく、こちらの方がたくさん元気をいただきます。

理念という共通の言語

現在も、毎年九期のメンバーで忘年会をしています。ほとんど全員が参加します。

近況報告や、バカなことだったりしますが、理念という共通の言語がある私たちの話はいつまでもいつまでもつぎることがありません。



経営理念

三溪設備は技術を育て生きる(活きる)場を提供します。

経営理念

真の人間愛をもって、命に寄り添う

同友会大学二十二期の歴史



緊急ではないけれど 重要な普遍的課題の学び

同友会大学・学長／中讃第2支部
矢野 俊郎 代表取締役

矢野 俊郎

『学ぶとは誠実を胸に刻むこと、教えるとは共に希望を語ること』
（レイ・アラゴン「ストラス・ブール大学の詩」より抜粋）

「経営者としての人格形成」を主旨として一九九三年に創立された香川同友会大学は、会内また会外皆様方の相互努力と熱意に支えられ、初代の三宅学長から西村学長、田村学長へ引き継がれ、二〇一五年に第二十二期を迎えることができました。

本学は、同友会理念を土壌としつつ、しかしながら通常の「経営体験報告を基軸に学びあう例会」等では発現しづらい、より広義の「自然をも見据えた社会経済的な経営環境」と、「企業家たる人間」をフィールドとし、「相対的独自性をもった同友会運動の礎」たるべく、多分野・多様な講座を開催してまいりました。

その一つをこの場でとりあげることは叶いませんが、「緊急ではないけれど重要な普遍的課題の学び」を基軸にし、時々々の時代状況、ともすれば経営とは距離をおかれがちな国民的政治課題もあえて学びの対象分野といたしました。

およそ万象世界は、矛盾を源にする量から質への転換をはかる生成消滅の過程そのものであり、その認識は具体から抽象へ、そして抽象から再び具体への連続的還元の道筋によつて担保されるものと存じます。換言すれば、混沌たる諸事象を在るがままに観ること（「現実」から逃避せず、し

かして「現実」に逃避することなく）分け入っては、偶然的な構成諸要素を精査・選択・捨象し、抽出したいくつかの必然的要素（弱い本質）を、出発点であった「手つかずの混沌（強い表象）にかぶせて（抽象）「より強い本質」を汲み取ることで、「成長発展の認識と顕現」はこの全過程の立体的連鎖に存するものと考えます。

近年の生産と消費の効率・効用性を第一とする傾向は、「グローバル市場経済」的思想（経済成長至上主義）と相俟って、かつて人類が経験したことのない、いびつにねじれあった「格差社会」をつくりだしてしまつたように思います。

この「具体的かつ偶然的な足元の現実」に企業家として働きかけ、「共に、生き・暮らし・人間らしく生きる社会」を経営の「対内・対外的な共有認識」にしていくことが、「企業家たる経営者」に付与された「すなわち「同友会」の歴史のかつ究極の課題と存じます。

実践の中に学び、学びを抽象し、学び方を学び、会員個々企業が「同友会型企業」として『ゆたかで幸せに生きることができると世界づくり』を担うべく

本学は…
「題名のある、伸縮自在の袋」
であり続けたいと
心から希求するものであります。

S I N C E 1 9 9 3

継承されてきた歴史の重み

同友会大学 第十七期運営委員長
高松第八支部
大和警備保障㈱ 川田 幸範

昨年の平成二十七年で同友会大学は第二十二期を迎えました。平成の初期より一年も欠かさず継承（継承）されてきた歴史の重みと、立ち上げ発展させてきた諸先輩方のご苦勞をまずもって感じ入ります。

私が同友会大学に関わったのは入会して間もなく、同じ支部でもある先代学長の田村氏が学長就任されるのを機に支部役員や事務局員に勧められ受講者という立場で参加したのが最初でした。

その時の受講者の面々は支部内外を問わず私と同時に入会された、言わば比較的新しい会員が多かったと思えます。もちろん大先輩もいらしておりましたが、同友会大学は新会員の登竜門のような位置づけなのかも知りました。講座が始まりますと、どの講も私が今まで聞いたことがない、聞く機会もなかった講師やテーマ、切り口、講義内容でした。必死にメモを取りまとめ、後日レポートを提出し、自分のものにしてようと

精一杯でした。私は高卒ですので、疑似大学のような感覚だったのかも知れませんが、次の期には運営委員の声が掛かりました。受講するだけの受講者から作り手の立場に変わりました。先輩運営委員の大多数は本学に同友会大学が好きで生き活きと議論をしております。このように大学ファンの方々によつて同友会大学が継承されているのだと感銘を受けました。

第十七期からは運営委員長を仰せつかりました。同時期に学長に就任された矢野学長と「同友会大学の意義や立ち位置」「学びの意味」等々の議論を常にながら運営を重ねてまいりました。

受講者の減少や予算などの問題点はたくさんありますが、これからの激変の時代は同友会大学が更に必要なものとなり、真価が発揮されます。私は得るものがあるかにかに多い作り手として同友会大学に携わっていきたく思います。

最後に前述の「同友会大学の意義」「学びの意味」の議論が年々深まってきており、ここ数年で糸口が見えてきつつあります。その片鱗をのぞかせる直近の二期の活動報告を次のページで紹介致します。



ジャーナリスト
池上彰氏

第二十二期同友会大学を振り返って

節目の二十期となる同友会大学は運営を行う運営委員会を早期発足し、大学の目的・方向性、テーマを先立ってしっかりと話し合い、決定共有してからカリキュラム（講演・講師）を作成しました。

同友会大学の存在意義とは何なのか。そもそも学ぶとはどういうことなのか？矢野学長がパンフレットの挨拶文に「教えるとは（共に）希望を語ること、学ぶとは誠実を胸にきざむこと」と提唱しておりました。節目だからこそ基礎基本に戻り単なるイベント的な講座であってはならないと感じました。

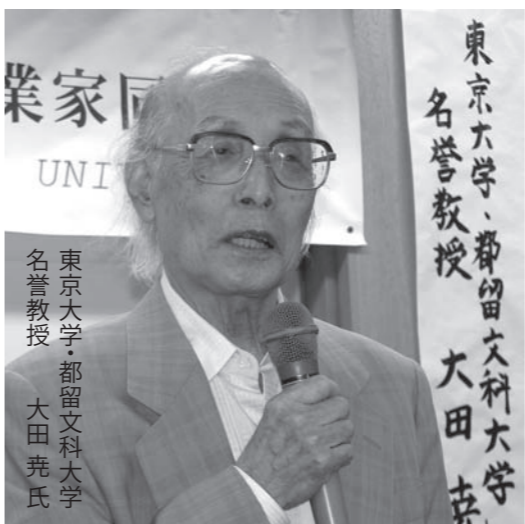
二十期のキーワードは「人・大地・世紀」と「現在・過去・未来」でした。これを基に各運営委員がカリキュラムの企画プレゼンを行いました。経営に直接の即効性のある

講座ではありませんが、経営者として社会人として人間として普遍的で且つ絶対的に必要な情報を感じ取るカリキュラムでした。このような趣旨で受講を呼び掛けましたが、全受講者は目標数まで達しませんでした。しかし普段ではなかなか聴けない講演講師ともあってスポット参加者数は多かったですように感じます。

第二十一期同友会大学を振り返って

第二十一期の同友会大学は「学びの原点・学びの本質は正に同友会大学にあり」と提唱し、同友会大学の魅力や存在価値を会員や会員企業だけではなく様々な分野に広めようとして取り組みましたが、目指した金融関係や学校関係からの受講は叶いませんでした。

しかし、今期の受講生の中で最も印象に残ったのは一般参加の一人の女性でした。彼女は「日常に学びを意識したい」、次に「五感を研ぎたい」との想いで全受講という参加の形式で共に学びに求められました。全講座修了後の卒業論文では「同じ事柄でも視点や捉え方を変え、立ち止まって別方向から見ること学んだ。」「各回で異なった分野の講義を受け、『学びの姿勢を教わった』など同友会大学の目的である大局観を養い、人間力を高められた成果であろうと感じ取れます。彼女の学びに対するひたむきさや純粹さ、



東京大学・都留文科大学
名誉教授 大田堯氏

そして実行力は正に同友会大学で求め続けている「学びの本質」に限りなく近いものと感じました。

二十一期でも、第一講（開校式―同時開催）と締め最終講は経営体験報告や同友会運動の本質を学ぶ要素が濃い講座になりました。

その他の講座は経済状況、地域、生活、政治、そして平和問題と経営者の前に一人の人間として「知っておかなければならない事」の大切な要素が組み込まれていて、特に平和問題は継続的に毎期取り入れる課題だと位置づけて取り組みます。

これは全国の同友会活動でも類を見ない視座です。この幅広い学びの同友会大学を出るだけ多くの方々に受講して頂けるよう、来期は広報・推進活動に励みたいと思います。

受け継がれる精神

同友会大学運営委員

高松第四支部

（株）宗家くつわ堂

田村 照夫

二〇一五年、同友会大学は二十二期を無事終了しました。翌年、香川県中小企業家同友会が、創立四十周年を迎えるに当たり、同友会大学運営委員の一人として、記事を依頼されましたので、私なりの考えをまとめます。

私の同友会入会は平成十七年五月で、やつと十年を終えたところですが、さらに同友会大学は当初スポット参加でした。記事を書くに当たり、創立三十周年記念誌を見てみました。

同友会大学第一期は、一九九三年（平成五年）に香川大学法学部教授 高野真澄氏により「日本国憲法と私たちの課題」といったテーマで第一講が開催されたようです。第一期は一講から五講まで香川大学の五人の教授が講演したようです。また、現在は十講までですが、一期から十二期までは年間十二講開催されていたようです。

最近の同友会大学は、「人と大地が輝く世紀に」というテーマを継続して使用しています。また、「学ぶとは 誠実を胸に刻むこと 教えるとは 共に希望を語ること」というサブテーマも第二十二期同友会大学 矢野学長挨拶以降使われています。同友会大学は、その年毎に多様なテーマで講演を行って頂いております。講師選定にあたっては、一講と最終講は中同協関係者を選出、女性の講演者も三名

程度選出するようにしています。十三期には現在テレビ等で活躍の池上彰氏が講演、二十期講演頂いたダイヤ精機 諏訪社長は、その後「町工場の娘」という本を出版し、現在も活躍中。「日本でいちばん大切にしたい会社」の著者坂本先生や、駒澤大学の吉田先生は何度も講演をして頂いております。そのほかに、人生三毛作の村山氏、葉っぱビジネスの横石氏、グリーンパレーの大南氏等々書ききれない素晴らしい講演を頂いております。

ある意味一貫性がないようにも見え、すぐに会社で活用できる内容でないこともありますが、戦争と平和の問題、沖縄の基地問題、原発の問題等々通常の支部例会等でテーマになりにくいテーマもあえて取り上げています。「無用の用」役に立たなそうに見えるものが、実は大事。物事の本質は、目に見えないところにあると感じています。

現在の状況を把握し、過去の歴史や経験値から学び、そして未来に羽ばたき、輝かしい時代への幕開けに備えるべく英知を身につける。（第二十二期明石代表理事挨拶）全講をきっちり受講し、しっかりと予習（事前準備）、復習（レポート）を行い、「卒業」を目標と捉え、学びのハードルを上げることにより同友会大学ならではの学びの本質に触れる。（第二十二期川田運営委員長挨拶）

折しも二〇一五年は、三宅産業株式会社設立六十周年を記念して、初代学長の三宅昭二氏が「人間らしく生きる」という本を出版され、また、DIYジョイ（現／西村ジョイ株式会社）設立四十周年を記念して、



二代目学長の西村泰昌氏が「喜びに生きる 気を活かす」という本を出版されました。同友会大学の学長をされた方々の会社が歴史を積み重ね、現在も現役で経営にも携わっておられることはうれしい限りです。

同友会大学のもう一つの楽しみは、講演終了後の懇親会です。講演では聞けなかった話が、雑談の中で飛び出すことがあります。また、修学旅行も楽しみの一つです。その年もしくは、以前に講演して頂いた講師の会社等を訪問し、自身の目で確認することで講演ではわからない感覚を体感することが出来ます。同友会大学は同友会理念を土壌としつつ、精神は脈々と受け継がれています。

活動における三つの重点

社員教育委員会／高松第八支部
(有)エーワンセキュリティサービス 取締役会長

有吉 徳洋



受け継がれる精神

社員教育委員長になり活動の重点をおいた点の一つ目は「共育ち」という点です。従来の社員教育活動に参加される企業の経営者方々の中に、社員のみ参加させ自身の参加していない現実がありました。全国の同友会の研修において、まず経営者自身が学ぶ姿勢を社員に見せ、社員がその姿をみて初めて学びを深めることが出来ることを自身が学んでいたのです。新入社員研修と社員共育塾への経営者かそれに準ずる方の参加を義務付けました。

そうすることで社員共育塾に参加した社員さんと経営者の中に共通言語が生まれ、コミュニケーションを生み出すことに繋がると考えました。参加企業の中には社員共育塾終了後、共に食事をするなどお互いを知り合う良い機会に活用されていました。

二つ目は役員の方々の学べる活動です。自社で社員教育に悩んでいた方々、力を入れている方々を役員に参加していただき、運営しながら自社の問題が解決に繋がるよう心がけました。

役員会の後半に役員の方々の自社でも問題をもちより、皆で討論するなど役員会に参加し

表する社員さんも現れます。また新入社員さんや入社員間も親しくなると、抱えている悩みなど話し合っ共有しています。抱えている悩みで多いのが社内での孤独感。話してみても同じ悩みだということに気づいて、何故か安心したと聞いたことがありました。当初は塾の各講座が終了後、各社別懇談が二十分ほどあり、参加した社員さんと経営者が社員さんの感想などを聞く時間が設けられていました。しかし時間的にも長時間になり、途中から女性社員などが帰りが遅くなるということで各社別懇談は無くなりました。

最終講の第六講義は塾長をビックエスの大坂氏や徳武産業の十河氏などにお願ひし、記念講演をして頂き、その後修了式を行いました。参加企業企業の料理などで懇親会を催し、参加企業の社員さん同士の懇親も深められたと思います。

現在社員共育塾も十三期を終え、内容的にも素晴らしい内容になっているのを聞きし、続けてやって来て本当に良かったと思います。委員会役員会での雑談で、たまに社員さんへの愚痴をお聞きする時がありますが、「社員教育委員会の本来の目的は、社員の為の教育だけでなく社長さんの教育も大事だ。」ということを当時言っていたことを思い出しました。(苦笑)



修了式 社長からの手紙

社員共育塾開設の頃



社員教育委員会／中讃第2支部
ワイビー(株) 取締役会長

野田 勝利

社員たちの成長を感じて

社員教育委員会活動の年表をひも解いてみますと設立は昭和五十九年頃から始まり初代は西村ジョイの西村社長が就任して三期務めました。その後、九名の方々が就任し私は平成十七年から三期務めています。

元々は共同求人委員会での求人活動をしていた、採用した新入社員を社員教育委員会が主催する新入社員研修に参加させることが委員会との関わりでした。

毎年参加させているうちに、前任の委員長が体調を崩して、急ぎよ委員長を引き受けた経緯があります。当時の委員会自体の年間活動は主に新入社員研修が主で、既存の社員さんに提供できるようなことはされていなかったのですが、その頃の会社が岡山にもお店があり、その社員と一緒に岡山同友会の社員教育委員会が開催する社員教育大学に参加しました。岡山の社員たちが成長しているのを感じ、香川にもあればいい、当時の役員さんや担当事務局員と相談して、平成十五年に第一期の社員共育塾を六講座で開催しました。内容的には岡山同友会をそっくりまねして、支部例会方式で会員企業の経営者や幹部がテーマについて報告し、自社の社員とは一緒にならないようにグループ別に分かれ、各テーブルの経営者は出来るだけ話さず、会話が進まない時だけ助け船を出しました。もちろん各テーブル進行役のグループ長と発表者も社員さんで行います。最初の一、二講義まではぎこちない運営ですが、後半の講義になると上手になり、発表などは我々経営者よりしっかり発

取組みの歴史とこれから



香川県中小企業家同友会の共同求人委員会の活動は昭和五十八年からスタートし、現在（二〇一五年）三十三年目に入ります。当時既に北海道同友会を皮切りに、東京、神奈川、埼玉、静岡、岐阜、愛知、大阪、兵庫、広島、福岡では共同求人委員会の活動を開始しており、香川でも二、三年前より実行してはとの声があったようですが、力不足で実現が叶いませんでした。しかし前年（昭和五十七年）の会員増強運動により香川同友会も三〇〇名会勢となった中、昭和五十九年の採用を目指して、共同求人委員会をスタート。昭和五十八年三月十七日に先輩同友会の広島同友会の共同求人委員長をお招きしての「共同求人説明会」をもってスタートしました。

発足当初の歴史をふりかえって

香川県中小企業家同友会の共同求人活動は昭和五十八年に始まりました。その頃、弊社の求人活動は職業安定所か高校生の採用が中心で、大学生の新卒採用は一社単独でノウハウもなく困難な時代でした。

北海道同友会が昭和四十七年に共同求人活動をスタートさせ、香川同友会もそこから学び、経営者自らが計画を立て、学生と直接面談する同友会のスタイルは経営者の思いを学生に直接話をできる良い機会になりました。

記録によると初年度の参加企業数は十九社、学生の参加はわずか一八九名でした。

取組みの歴史と自社の企業変革

平成十五年、十六年頃は現在と同じように、人手不足が深刻な時代でした。丁度その頃に、当社も共同求人委員会に参加しまして、大学新卒（短大・四年制大学）の採用に取組み始めました。

当時の共同求人委員会の委員長は松野不動産㈱の松野社長でした。彼は旺盛な行動力の持ち主でして、委員会の席で決まれば即実行に移すという状態であったと思います。

例えば今も合同企業説明会の際に行っています。来場学生が五社以上の企業ブースを訪問すれば、もれなく図書カードを進呈するという学生目線のアイデアがあります。結果、各企業のブースを訪問する学生の数を増やし、より多くの企業を知ってもらうきっかけにも繋がったように思います。

過去十数年を振り返って、当時入社した新卒学生が今や当社にとっては、なくてはならない中堅管理職の立場にまで育って来ています。

今年（平成二十七年）十一月十九日には他団体ではありませんが、観音寺商工会館での商工会議所主催、永年勤続表彰式において初めて十年勤続の新卒社員が表彰されました。私も表彰式に参列して、万感胸にこみ上げてくるものがありました。

共同求人委員会 三豊支部
 ㈱求人タイムス社
 代表取締役 川崎 照夫

近年の取組と今後の抱負

ここ数年は毎年、八回〜十回位の合同企業説明会を開催してきました。在席する学生が参加しやすいだろうと、香川県内にいる全大学（香川・高松・徳島文理・四国学院）での学内説明会にも取り組みました。開催場所も、我々にとって利便性のあるサンメッセから、学生が参加しやすい公共の交通機関の利便性も考慮し、シンボルタワーへと変更しました。

また、同時開催をしていた大学・高校の就職担当の先生方との懇談会も大学と高校と分けて実施する事により、先生方との繋がりも強くなってきました。

そして、香川経営研究会の分科会づくり等を通して、新卒採用で自社がどのように変革したのかを見つめ直し、参加企業の底上げも図ってきつてあります。

しかし、皮肉なことに、参加企業数が増える反面、来場学生数はここ数年格段に減り続けています。それに歯止めをかけるべく、岡山同友会との合同開催や、県内学校の就職ガイダンスに向き、中小企業の魅力を伝えてゆく活動など新たなチャレンジをしています。

様々な経営者の勉強会など、内なる活動の多い同友会活動の中で、同友会の魅力を外部に向かって発信し続ける、我々は精鋭部隊であるという誇りがあります。地域の優秀な学生達の県外流出を、体を張って防止する『地域防衛軍』でありたいと思っています。

これからは学校との更なる連携、また学

当初は合同企業説明会に学生が集まらない時期がしばらく続いたが、予算もノウハウもない中、歴代の委員長を中心に共同求人委員会メンバーが様々な取り組みを行い、参加企業と参加学生は徐々に増加し、平成七年には参加学生が一五〇〇名を超えるまでになりました。また、昭和五十九年には合同入社式と新入社員研修が始まり、当時の新入社員研修は四月一日の入社式の後、直接柏原溪谷にあった「ダスキンの家」へ行き三泊四日の宿泊研修を行うものでした。社会人になつてすぐ山の中に連れてこられて、缶詰になるわけですから戸惑いもあっただろうと思います。しかし、講師だけでなく経営者も新入社員と寝食を共にするこの新入社員研修は五年ほど続き、新入社員にとっても記憶に残る研修であったように思います。

共同求人委員会 高松第八支部
 ㈱太陽社
 代表取締役 山地 英樹

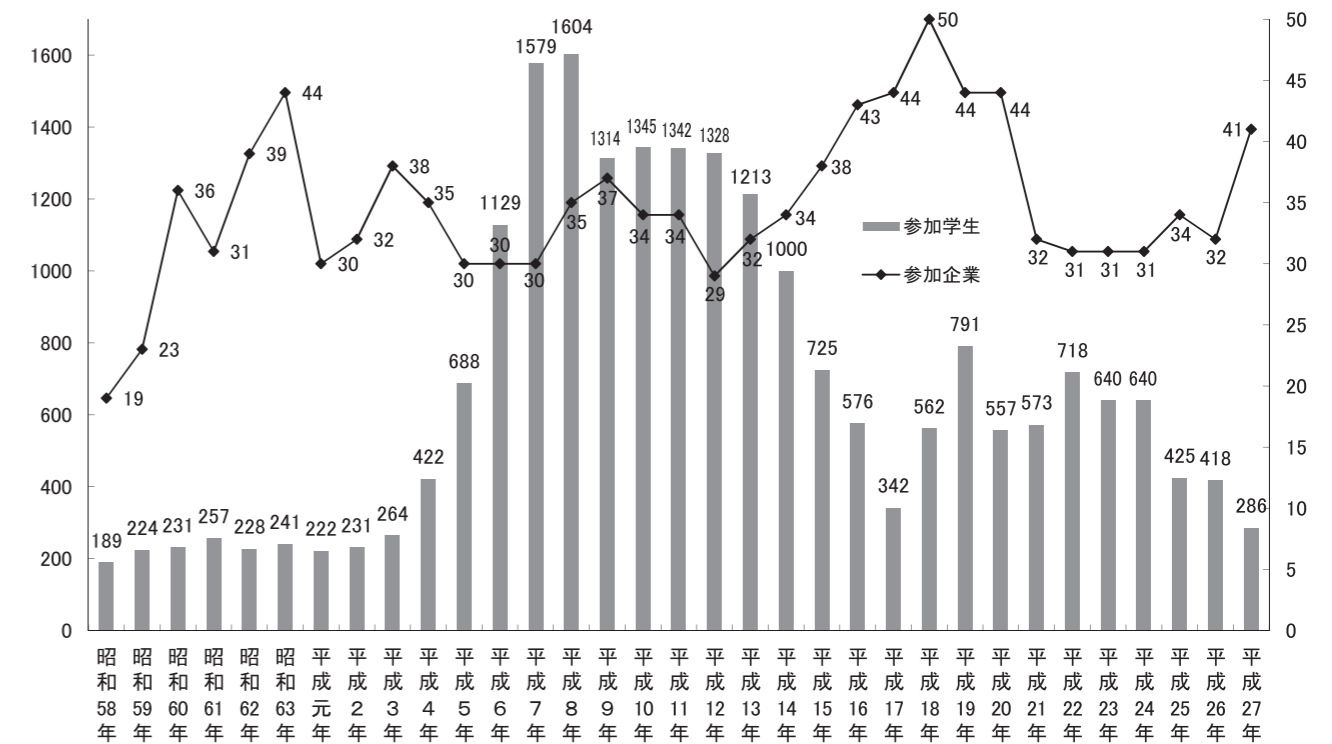


生への直接のアプローチや、四国連携しての具体的な取組み（四国の学校の連携や四国合同企業説明会の開催）など、新しいステージへ向かって羽ばたいてゆきます。我々と共に、地域活性化に向けて、共に活動していきましょう

共同求人委員会 委員長 高松第二支部
 三宅産業㈱
 代表取締役 三宅 慎二



共同求人参加企業数と合同企業説明会参加数の推移



共同求人活動 2006年～2015年の歴史

西暦	期	特記事項	委員会年度	説明会回数	説明会参加学生	参加企業数			同友会会勢
						合計	年間	スポット	
2006	31期	香川大学、四国学院大学にて学内合同企業説明会を開始。	24年	8	562	50	27	23	1362
2007	32期	高松大学にて学内合同企業説明会を開始。	25年	10	791	44	27	17	1601
2008	33期	全国求人サイトJobwayに本格的に取り組む。	26年	10	557	44	27	17	1653
2009	34期	徳島文理大学にて学内合同企業説明会を開始。 高校の就職指導の先生方に向けた合同企業説明会を開始。	27年	8	573	32	24	8	1585
2010	35期	高校の就職指導の先生方に向けた合同企業説明会について。 高校の教育委員会と連携して実施。	28年	8	718	31	19	12	1494
2011	36期	穴吹学園にて学内合同企業説明会を開催。	29年	9	640	31	22	9	1459
2012	37期	岡山同友会と合同企業説明会を開催。	30年	9	640	31	17	14	1464
2013	38期	香川短期大学にて学内合同企業説明会を開催。	31年	9	425	34	21	13	1440
2014	39期	県内4大学の就職指導担当向けの企業見学バスツアーを実施。 学生の売り手市場化の加速(参加学生の減少)	32年	10	418	32	20	12	1449
2015	40期	学内合同企業説明会に代わる企画として、県内4大学にて学内ガイダンス開催。香川大学ゼミナール連合との関係構築に着手。 経団連;採用選考に関する指針による就職活動時期の変更(3月;広報活動開始、8月;選考活動開始)	33年	8	286	41	25	26	1527

※平成27年の香川同友会会勢は12月9日(理事会)現在の数値です。

共にいきいきと働ける 社会風土づくり



特徴的な取組み

平成二年に発足した障害者問題委員会。

それ以来、養護学校との連携、情報交換や現場実習の協力、また県内外の施設訪問や障がい者問題に関する様々な勉強会を行ってきました。

「心身ともにいきいきと働き、働く場所を提供する」と言うテーマに基づき、第三十期以降は委員会として障がい者雇用の手応えを感じ始めました。

その後も会内へ啓発活動を続けながら、福祉業界との連携、そして障害者に対するアンケート意識調査を実施し、そこから「現場実習受け入れ賛同マップ」を作成するなど、少しずつ形や視点を変え進めてきました。

そして、京都、愛媛、岡山の県外同友会の委員会視察や障害者問題全国交流会にも参加し、全国との連携も深めてきました。また、香川同友会内の経営労働、共同求人、社員教育委員会と連携して「人を活かす経営」の四委員会合同例会を開催し、同友会が目指す人間尊重の経営を深めていけるよう努力してきました。

障害者問題委員会 副委員長 中讃第二支部
NPO法人 丸亀街づくり研究所
事務局長 合木 啓雄



ワークショップによる勉強会

これまでの到達点・評価

この十年間で学んだことは、「無関心こそが、社会の一番の問題」ということです。私たち企業家ができること、また同友会が掲げる同友会理念の大きな目的を実現していくには、障がい者雇用のみならず受け入れる側の環境整備を整えていく必要があると強く感じます。

障がい者雇用の鍵は、目が悪い人が眼鏡をかけるようなもの。苦手な部分をどう補うかだと思えます。これはハンディの有る無しに関わらず、どの角度やどの立場に関わり、何を支援するかです。障がい者雇用に一番必要な事は、「仕事に人を合わせるのではなく、人に仕事を合わせる。」仕事を細分化する事により、また分業する事により、障がい者雇用が可能になります。

同友会は、人を大切にし、その人の個性や特性を活かし、人材(財)にしていく経営を目指しています。人それぞれ違う特性の持つ人を人材(財)にしていくには、会社の風土、経営者の力量が問われます。障がい者がいきいきと働いている企業は、他の社員もいきいきと働いていると思います。今まで取り組んだ、内容を更に具現化するために今後も引き続き特別支援学校、ならびに福祉関係者との連携を密にし、会員企業の中から一社でも多くの障がい者雇用が実現できるように今後も取り組んでいきます。

障害者問題委員会 副委員長 中讃第二支部
NPO法人 Natural face
理事長 大野 直樹

今後の展望

私たち障害者問題委員会では、障がい者雇用を普通の就業体系にすること、そして誰もが成長し自立し、健常者と障がい者が共にいきいきと働ける社会風土を作る事をめざしています。

弊社では普段朝礼で社員に、「理念と算盤」が大切だと言うようにしています。理念を忘れた経済は罪悪であり、経済を忘れた理念は寝言であるとの意味です。弊社ではこれを経営する上での両輪だと考えています。これを委員会に当てはめるとすれば、「理念のないところに成長なし。経済のないところに自立なし」との思いで活動をしています。

知的・身体・精神・発達障害等、様々な障害を知っていただきたく、委員会で定期的に特別支援学校、障がい者雇用をされている事業所様の見学会等を開催しています。そこで障害の特性を知り、興味



を持ちコミュニケーションをしていただければ、障害に対する理解が深まり、障がい者の方々もさらに成長できると思います。人は誰しも認められたい欲求があります。障がい者の方たちも、働くことで所得を得て、自立することができ、また納税などの社会貢献をすることで誇りを持つこともできるのではないのでしょうか。確かに障がい者雇用は大変です。しかし、その壁を乗り越えるにはみなさんの協力が必要なのです。そのためにも実習・雇用に興味のある会員の皆様に、障がい者職場体験賛同マップへの掲載とフェイスシートの作成をお願いしています。その活動の先に、障がい者と健常者が共に働ける環境ができ、そこから成長・自立・誇りが生まれるのではないのでしょうか。これから委員会では一人でも多くの障がい者の方の雇用に向け、様々な情報を提供していきたいと考えています。そのひとつが平成二十七年十二月より従業員五十人以上の事業所に義務化されました「ストレスチェック」と言うものがあります。それは、従業員さんの心のケアの義務化です。今後五十人以下の事業所でもさらに義務化される可能性が高いと思います。それらに対するメンタルケアの勉強会も定期的に実施していきたいと考えています。

また、平成二十八年四月より「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が実施されます。この法律は、障害者基本法(昭和四十五年)の基本的な理念のつとより、全ての障がい者が、障がい者でない者と等しく、基本的な権利を享有する

個人としてその尊厳が重んぜられ、障害を理由とする差別の解消を推進し、さらに全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的とされています。今後、委員会として香川同友会としても、この問題に今後どのように対応していくのかも大きな課題になると感じています。

障害者問題委員会 委員長 高松第七支部
(有)河商仮設資材
代表取締役 福田 秀樹



他県同友会へ見学訪問

この十年の運動



富永 光昭

異業種交流委員会 委員長／高松第7支部
エム・ティボデー(株) 代表取締役

企業訪問・新サービスクから 企業間連携へ

この十年の運動は異業種交流委員会にとつても様々な変化がありました。

三十一期からは会員外の企業訪問や「わが社の自慢を紹介します!」コーナー、経営研究集会の見学分科会担当と、自社PRと企業訪問を通じて視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚に訴えた例会の企画と実施を行ってまいりました。

成果としては、会員内の企業に囚われる事なく、香川県内を中心に、四国内で魅力的な企業や新製品を販売して注目を集めているその時、旬な企業に直接出向いて見学することで、自社で出来る新商品開発のヒントをもらいました。

しかし会員外の企業訪問が多かったことでもあります。完成品の説明を聞いたりしてとても面白い反面、その製品やサービスが出来上がってきた過程であったり、そこに携わる社員との関わりなど深い部分での



マーケティング
入門講座

マーケティング講座

お話までお聞きすることが出来ない事が多くあった為、「楽しかった!」で終わってしまふことも多かったのが参加者である私自身の反省でもあります。

そして異業種交流委員会単独ではなく、各支部の方々と共に合同例会を年に二回程度行うようになったり、「新製品・新サービス」といった部分から「企業連携」というテーマに沿った、勢いのある会社の企業訪問に力を入れていったように思います。

第三十七期からはより具体的に企業間連携を進める為、マーケティング入門講座を開始しました。開催時には六十名ほどの会員さんが集まり、改めて同友会会員皆様の勉強熱心さに驚いたことを覚えております。

このマーケティング入門講座は溝口前委員長が委員長時代に行っていたのですが、マーケティングをかじったことがない人でも分かりやすく、異業種交流委員会が単独開催する例会では今まで十人程度の参加だったのがこれだけ多くの方に来ていただき、とても特徴的な活動であったと思います。

この背景には、溝口前委員長が中同協の委員長会議に出席した際に、他県の異業種交流会(企業連携委員会)は産・官・学・金の連携の重要性を真剣に議論して、「少子高齢化で人口が減ることが明らかになっていくこの時代に、今まで通りの商売で生き残ることは容易ではなく、企業間連携をはじめとしたコラボによって、競争のない未開拓市場である「ブルー・オーシャン」を切り開くことが中小企業の未来である。」といった学びがあったからだとも聞いております。



(株)山岸竹材店(高知)

このマーケティング講座ののちに、基礎を学んだ同友会会員が具体的に企業間連携をしてもらうというところまでがこの頃の到達点で、具体的に「同友会会員内でポイントカードをつくりませんか?」「現在日本の消費リーダーである団塊の世代にターゲットを絞って、皆で商品をつくりませんか?」「異業種交流委員会のホームページを立ち上げてお年寄りが何かをしたい・知りたいがやり方や調べ方がわからない」といった情報をホームページに挙げて、同友会会員企業内で解決したり紹介したりする連携をしませんか?」といった提案をしていたのですが、具体的に「たんに参加人数が減った」という反省があります。残念ですが、企業同士の連携を真剣に取り組もうと思えるまでの取り組みには至らなかったわけです。

しかし、このマーケティング入門講座を通じて、参加された企業の皆様が自社を分析して自社にあったターゲットを見つけて価格競争に巻き込まれない道筋を見つける



(株)小林ゴールドエッグ(徳島)

ことがどれだけ重要かといった部分は学んでいただけたと思います。

この反省を元に、異業種交流委員会は企業連携にどこまで取り組むことが私自身と会員のみならずにとつてよいことなのかを考えた結果、会員間の企業連携推進の方向性は変わらずに、具体性を出して委員会内で実践するというレベルから下げて、連携の重要性やきっかけ、また今の香川で流行っているものをみんなできつくばらんにゆるく出し合つてヒントを得ることが出来るような委員会をつくること。また、新しい会員さんや支部に馴染めない会員さんの居場所になるような、いつでも参加しやすい支部では出来ない雰囲気のある委員会にすることが、これから先の実践に繋がっていくと考えて現在は動いている最中です。

今後は、部会や委員会など、連携して支部では行えないような専門的な例会を開催していくとともに、企業連携を実践している他団体や他県同友会に学んで手法を取り入れること、そして香川の地域ならではの



かめびし屋企業見学

のビジネスマッチングを模索できるような委員会に成長させていこうと考えています。日本の未来は今のままでは明るくありません。明るくするかしないかは日本の全会社数の約九十九%、全従業員数の約七十%を占めている中小企業にかかっていることは間違いありません。そして、人口減少がじわじわと確実に進んでいる中で、地域の中小企業が生き残っていかなければ地方が疲弊していくことは見えている未来です。これは香川県も変わりません。そのためにも、私達中小企業家が学び、挑戦し、変革して、中小企業が競争するのではなく連携しながら地域の雇用を守り、地域を育てていくことが重要です。

異業種交流委員会では、今後も会員間の企業連携をテーマに掲げて、同友会会員企業から連携実践事例がどんどん生まれ、それによって同友会会員企業が発展し、企業が発展することで地域が活性化します。そんな運動に繋がっていきたくと思っています。

活動についての省察



活動の三本柱

国際交流委員会（平成五年設立）は、大きく三本の柱に分かれています。

- 一、海外視察。現地のジェトロ・日本人商工会議所・他の団体に、歴史的背景や宗教的關係を基に進出する為の情報を頂き「会員自身の目で見て、耳で聞いて手で触れて習得する。」中小企業としての自社能力・業種に合った方向性を中心に現地同友会企業を選出し訪問、進出や取引の糸口を探ります。
- 二、海外に何十年間進出（取引）している企業の体験例会。宗教・習慣の違い・経済成長による雇用関係等々貴重な体験に基づく失敗談話！ 直ぐに処置し対処する方法を学びます。
- 三、香川県に住む留学生・研修生との交流。自国と日本の生活習慣や宗教的な違いを学び、会員企業の業種・業態に合わせた人材確保・経営者としての能力を高める交流。日本の大企業・中小企業へ就職か自国に帰って就職する理由を探ります。

「アジアに焦点を当てた取り組み・目指せ！国際情報発信基地」をテーマに掲げジェトロから講師を招きビジネス環境を学びました。

また、尖閣諸島問題勃発・海外視察は香港へ現地法人と商談会・市場動向や国際取引の難しさを学び、海外進出している会員による体験報告。生の声海外視察はベトナムへ（製造・サービス・農業）見学によ

る市場調査・他団体との協力で会員に有益な情報提供（システム構築）ジェトロ所長を招いての例会・海外視察は、ジャカルタへジェトロ・ジャパンプラザ（日本企業四五〇社が加入）現地事務所にて現地の生の声を聴き収集、ビジネスの方向性を探る事が出来ました。

恒例になったジェトロ所長の例会・同友会大学。ジェトロ海外調査部国際経済課権野氏を招いての講演を支援しました。海外視察は、バンコクへ。ジェトロ・現地企業視察は、国内以上の教育された社員対応・整理・整頓された工場・作業工程の能力度は、理化学工業（株）と大阪・タケダ（株）へ愛知同友会へ、どちらの会社も共通でした。

昨年も行った現地駐在日本人との懇親会（バンコク日本人商工会議所 事務局長）は、食事をしながらの雑談で生活水準・環境整備・安全性等を知ることが出来ました。外国人留学生・研修生との交流（例会）も年々深め中小企業への就職を希望する留学生も現れました。

大企業に限らず中小企業（同友会会員）に海外進出のチャンスが訪れて来ました。

会員各自社の物差しに合わせて、情報と発信を積み重ねられる委員会を目指して行きたいと思えます。

国際交流委員会 委員長 高松第九支部
ビルトプラニング・ヤマシタ
代表 山下 恵三

活動の役割と存在意義

私は、二〇一二年から委員長を二年間させて頂いていただきました。そのスタートとして取り組んだのが「同友会の中での国際交流委員会の役割とは何か」を考え方向性を明確にすることでした。

当時、世の中は経済の国際化が注目され、政府による中小企業の国際化支援も進み、いろいろな情報が飛び交っていました。そこで注目したのは中協協が中心となり活動し、二〇一〇年に閣議決定された中小企業憲章でした。私はその中の行動指針に書かれてある「海外展開を支援する」という文章こそが香川同友会の国際交流委員会の役割であり、存在意義ではないかと考えました。中小企業憲章にも書かれているよう



ジャカルタ海外視察

に「海外市場の開拓・海外市場動向・見本市関連などの情報提供・販路拡大活動支援・知的財産権トラブル解決・国際人材の育成・外国人活用の為の支援」を官と連携し会員企業に対しサポートできる国際交流委員会に進化させたいと思ひ、最終的な国際交流委員会の目標を「会員の国際化をサポートできる情報発信基地」にすることが存在意義につながると考えました。

まず最初に行ったのは、関係行政機関（四国経済産業局・香川県・産業支援財団・JETRO・JAICA）を宮下事務局長や事務局員の久保氏を中心に会員が同行訪問し、各関係行政との情報収集ができる仕組みづくりを行いました。現在では各行政の情報事務局から委員会資料として会員に配布されております。

次に委員会の年間活動として、次の四つのテーマを掲げて会員皆様の協力をいただき、委員会を運営しました。

- 一、JETRO香川の局長による世界経済のセミナーを行い、世界経済の情報を分かむ。
- 二、海外視察を行い、現地日本企業や団体との交流会及び会社訪問、現地外国法人との交流や勉強会を行い実情を知ることと国際感覚を養う。
- 三、香川大学・高松大学留学生との交流会を行い、海外から見た日本を知ることや国際化対応力を高める。
- 四、国際取引を行っている企業による体験報告から学ぶ。



ジャカルタ海外視察

このテーマを継続して例会を行う事と事務局に会員・海外団体・行政からの国際情報が高い精度高く集まり、会員へ情報発信できる国際交流委員会になれば、会員の満足度及び会員開発にもつながる存在価値のある国際交流委員会になると思ひます。

つきましては、現山下委員長を中心に役員も頑張っていけますので、今後もより一層の会員皆様のご指導、ご協力を賜りますよう宜しくお願い致します。

国際交流委員会 相談役 高松第一支部
（株）トラスト・ジャパン
代表取締役 松浦 達也

チームIT香川 セミナー等の活動実績 (2011~2014)

開催日	演題	場所	参加人数
2011. 6/ 2	ビジネスに役立つ iPhone iPad 活用事例講座	頭脳化センター	25
2011. 9/12	Facebookで集客! Facebook 実践講習 ~ Facebook ページ作成&活用の仕方~	頭脳化センター	20
2011. 9/29	Facebookで集客! Facebook 実践講習 ~ Facebook ページ作成&活用の仕方~	頭脳化センター	31
2011.10/20	Facebookで集客! Facebook 初級講習 ~基礎から始めるFacebook ~	頭脳化センター	32
2011.11/22	Facebookで集客! Facebook 初級講習 ~基礎から始めるFacebook ~	頭脳化センター	30
2011.12/ 6	Facebookで集客! Facebook 初級講習 ~基礎から始めるFacebook ~	頭脳化センター	17
2012. 1/27	Facebook&Twitter講習会	頭脳化センター	14
2012.12/18	たった1ページの改善で必ず売上がアップする! 社長・Web担当者のためのWeb戦略スタートアップセミナー	頭脳化センター	53
2013. 1/17	香川初! ファイルメーカー(オフィシャル)ハンズオンセミナー ファイルメーカーを使って簡単に iPhone・iPad アプリを作ろう!! FileMaker プラットフォーム for iOS 開発講座	頭脳化センター	25
2013. 2/14	社長・Web担当者のためのWeb戦略超入門編(売上アップの基礎) 本気でホームページと向き合えばたった1ページの改善で必ず売上がアップする!	頭脳化センター	45
2013. 2/25	今話題の最新セキュリティセミナー&コラボノート	頭脳化センター	19
2013. 3/29	ホームページの運用、ITコストの見直しパソコンのトラブル、など・・・ 個別 ITなんでも相談会	頭脳化センター	6
2013. 4/22	知って得する検索(SEO)対策!(社長・Web担当者のためのWeb戦略中級編) 『業者に丸投げ』で大丈夫? 知って得する売上アップの検索(SEO)対策	頭脳化センター	54
2013. 5/22	ホームページの運用、ITコストの見直しパソコンのトラブル、など・・・ 個別 ITなんでも相談会	頭脳化センター	8
2013. 6/18	チームIT香川 Web戦略セミナー ムダな広告費をかけずに売上アップ! ホームページ見込み客 囲い込み大作戦!!	頭脳化センター	45
2013. 7/23	ホームページの運用、ITコストの見直しパソコンのトラブル、など・・・ 個別 ITなんでも相談会	頭脳化センター	6
2013. 8/23	チームIT香川 Web戦略セミナー 売上アップ!!ホームページの疑問お悩み上級編 Web解析士がズバリ解決100連発!	頭脳化センター	47
2013. 9/13	ファイルメーカー(オフィシャル) iOS 活用セミナー ファイルメーカー(iOS)を使った、様々な業種に活用できるビジネスアプリ事例	頭脳化センター	82
2013.10/24	チームIT香川 Web戦略セミナー 『検索結果で上位表示されること』を目的にしていますか? 売り上げをアップする本当のSEO対策!!	頭脳化センター	43
2013.11/20	ホームページの運用、ITコストの見直しパソコンのトラブル、など・・・ 個別 ITなんでも相談会	頭脳化センター	6
2014. 1/21	Web戦略セミナー 『見込み客』をガッチリつかまえて成約率をアップする! 売れるホームページを徹底解説!!	頭脳化センター	44

IT支援活動と今後の計画



チームIT香川 部会長／高松第4支部
エーアールシステム(株) 代表取締役

長町 和俊

中小企業のIT化

「チームIT香川」は平成二十二年十月設立いたしました。兵庫同友会の「チームIT神戸」に師事、そしてヒントを得るとともに独自の路線で中小企業のITまわりをワンストップで支援するサービスを展開しています。

中同協の方針の中に「中小企業のIT化」があり、全国の同友会の中には「IT部会」といわれるものも少なくありません。

しかしほとんどがIT企業に向けた内向きに勉強になっています。「チームIT香川」はそこにとどまらず、主に「中小企業のIT化」という使命のもと一般の会員企業にむけて情報を発信しています。

活動内容は大きく分けて、この三つが柱となっています。

- ①「IT相談サービス事業」
- ②「セミナー・研修会の開催」
- ③「IT企業の協業」

特にセミナー研修会を開催している毎月の例会ではITを使った業務効率化、新規顧客の獲得、既存顧客の定着化などの内容を企画し、来ていただいた会員さんに大変喜ばれ、勉強会に至っては毎回四十名を超える人に来場いただいています。

五年間で二四〇〇名(最高八十二名、平均三十七名)を超える方にご参加頂き、最近の二年間の参加者は約八〇〇名、一回平均四十名(二十名限定セミナー六回も

含む)の方々にご参加いただき、皆様のITに関わる関心度の高さが伺われます。

今後の計画

- ① 同友会内で志が一致するIT事業者を増やし、会員間でより一層の情報交換の場としサポートを充実させる。
- ② NPO法人化も視野に入れた同友会外への情報発信。
- ③ 異業種との連携による商品の開発。
- ④ 他県同友会にチームITを広める。



映画部会 各種部会活動



映画による 地方再生と創造

福永 信也

映画部会 部会長 / 高松第9支部
アット・ライフ・プランニング 代表



設立初の企画は、高松第三支部・九支部との合同例会を開催し、地元作品「めおん」・「庵治石の味」の監督・プロデューサー、そしてうどん県副知事でもある女優の木内晶子さんをお招きして地域活性と地域貢献のディスカッションを行いました。もう一方のうどん県副知事、俳優の要潤さんが出演された「タイムスクープハンター」のご本人による映画応援にも多数の会員参加をいただきました。

平成二十六年に

は、さぬき映画祭優秀企画作品「アヒージョ」を映画部会がメインとして支援させて頂く事となりました。多くの同友会会員がスタッフ・エキストラとして参加し、見事グランプリを受賞する事が出来ました。同じく優秀企画となっていた二作品「よるべしるべ」・「W&M」もサポートさせて頂きました。

平成二十七年には、設立当初から関わらせて頂いておりました映画「ある夏の送り火」の撮影で、さぬき市鴨庄白方の精霊送り火を題材に制作コーディネートさせて頂きました。また、映画「がらくた」の坂出市ロケをサポートさせて頂きました。青少年の心情を瀬戸内海を背景に映し出される素晴らしい作品です。いずれも平成二十八年公開予定です。

東京国際映画祭取材協力を二年連続させて頂いて感じたことがあります。それは、映画祭そのものが世界のどこであれ地域活性、地域貢献の一つの手段であるということ。映画（映像）という文化をいかに取り込んで活用するかが、地方再生と創造への鍵になるのではないかと考えます。

今後の展開として地産地消の映画（映像）から世界に通用する作品を香川から生み出す事ができれば、新たな市場としての観光資源や定住促進・人材育成へと発展させる事に寄与できると思います。



三年間の活動と今後の展開

平成二十五年に部会が設立して早や三年。部会のテーマは、映画を通じて地域活性・地域貢献・行政との連携・人材育成・定住促進であります。

設立前年に地元の足として慕われる、「ここでんの百周年を記念して映画「百年の時計」が金子修介監督によって撮影されました。この作品にスタッフ・地元サポーターとして制作・チケット販売と大きく関わった事により八週連続上映、一万人動員という快挙を成し遂げ、翌年全国上映となりました。香川で沢山の映画が撮られていますが、「もつと地元との連携が取れないものか？」と思ったことが、多業種に渡る香川同友会での部会設立に大きな意味を持つ事になりました。

チームIT香川 セミナー等の活動実績 (2014~2015)

開催日	演題	場所	参加人数
2014. 3/24	知って得する検索(SEO)対策!(社長・Web担当者のためのWeb戦略中級編)『業者に丸投げ』で大丈夫?知って得する売上アップの検索(SEO)対策	頭脳化センター	39
2014. 5/22	Web戦略セミナー 下請けから脱却!! ホームページで直接お客さまと取引する仕組みをつくる!	頭脳化センター	42
2014. 6/ 5	ファイルメーカー(オフィシャル) iOS 活用セミナー ファイルメーカーを使うとスマホ・タブレット向けのオリジナルアプリが誰でも簡単に作れます	頭脳化センター	55
2014. 6/ 6	ファイルメーカー(オフィシャル)ハンズオンセミナー ファイルメーカーを使って簡単にiphone・ipadアプリを作ろう!! iOS 上で稼働するカスタムソリューション開発体験セミナー	頭脳化センター	25
2014. 8/ 2	WACA認定ウェブ解析士・チームIT香川 共催 第8回 アクセス解析セミナー in 香川 自社サイトを“コスト”で終わらせないために・・・	頭脳化センター	49
2014. 9/30	プロが教える“明日からすぐに役立つ”ホームページ改善法 中小企業の社長なら必ず知っておくべき『儲かるホームページ』“超”基礎講座	頭脳化センター	48
2014.10/ 2	ファイルメーカー(オフィシャル)iOS 活用セミナー 全国で拡大しているローコストな業務改善 成功事例 iPhone・iPadのオリジナルソフトはファイルメーカーを使うと誰でも簡単に作れます。	頭脳化センター	67
2014.10/ 3	【初心者向け】iPadと FileMaker を利用した業務システム作成体験セミナー 簡単にiPhone・iPadアプリを作ろう!!ファイルメーカーならあつという間です。 iOS 上で稼働するカスタムソリューション開発体験セミナー	頭脳化センター	23
2015. 1/30	Web戦略セミナー プロが教える“明日からすぐに役立つ”PPC広告の基礎	頭脳化センター	50
2015. 2/25	ファイルメーカー(オフィシャル)ハンズオンセミナー 難しいプログラミングは全く不要!!明日から使えるiPhone・iPadアプリを作ろう。	頭脳化センター	22
2015. 2/26	ファイルメーカー(オフィシャル)ハンズオンセミナー 難しいプログラミングは全く不要!!明日から使えるiPhone・iPadアプリを作ろう。	頭脳化センター	20
2015. 3/25	Web戦略セミナー パソコンやネットが苦手な社長のための超・わかりやすいホームページ成功術	頭脳化センター	62
2015. 4/13	中小企業の社長が知っておくべきWebマーケティングの基礎 ホームページは作ってからがスタート! 儲け続けるためのマーケティング戦術・戦略	頭脳化センター	65
2015. 5/22	Web戦略セミナー 本気でホームページと向き合えばたった1ページの改善で必ず売上がアップする!	頭脳化センター	68
2015. 6/24	ファイルメーカー(オフィシャル)ハンズオンセミナー 難しいプログラミングは全く不要!!もっと簡単に明日から使えるスマホアプリを作ろう!	頭脳化センター	20
2015. 7/21	迫りくるマイナンバー危機への戦略的対処 “あつ”と驚くマイナンバーの本質と対応策	サンメッセ香川	22
2015. 8/26	目指せ月商100万突破!!全国の店舗事例から学ぶネット通販2015 ～ 香川初! Eストアショップサーブ × チームIT香川 共同セミナー ～	頭脳化センター	52
2015. 9/16	iOS ハンズオンセミナー ビジネスにおけるiOSデバイスの実践活用に向けた ソリューション開発を実際に体験していただきます。	頭脳化センター	20
2015.12/ 1	0円ではじめるYahoo!ショッピング! 出店から繁盛店にするための黄金マニュアル	頭脳化センター	50

農商工連携部会 各種部会活動



新しい農業スタイル

川西 裕幸

農商工連携部会 部会長／高松第5支部
(株)スカイファーム 代表取締役

香川同友会では最近、農業者の入会が多く、「地域農家と中小企業家が連携し、新しいビジネスを創造する」ことを目的に、平成二十五年十一月に「農商工連携部会」を設立いたしました。



例会の様子

農商工連携部会設立の目的

また、TPPにおいても、日本農業は壊滅的な影響の恐れや生活・産業のあらゆる分野に影響が及ぶことが懸念されています。このような不透明な時代だからこそ、これからは同友会理念を学んだ企業家と農業者が積極的に連携して、新たな価値創造や雇用の創造を行う新しい農業スタイルを確立し、地域づくりの中心とならなくてはなりません。

近年、農業を取り巻く情勢は、世界的には食糧不足や地球環境問題など、農業が鍵を握る課題の重要性が大変に高まっています。日本ではTPPや食糧自給率の低下、高齢化による農業従事者減少の問題はもとより、戦後の農地解放政策の時から行われてきた、家族単位の「農家」生産を基本とする従来型農業政策が構造的に限界を迎えているように感じています。

日本における農業の情勢

各種部会活動 ソーシャルビジネス部会

地域と共に成長する企業



ソーシャルビジネス部会 部会長／高松第1支部
Mint Design 代表

大山 美代子

問題解決のために

ソーシャルビジネス部会は、平成二十六年十二月建設業の会員を中心に五名で発足しました。ソーシャルビジネスとは、社会的課題をビジネスを通じて解決する事業です。それを踏まえ、私たちは次の三つのことを軸に取り組んでいます。

一つ目は「社会性」です。これは社会問題の解決をビジネスとすることです。例えば、環境問題、少子高齢化、高齢者・障害者の介護・福祉、青少年生涯教育、まちづくり等があります。
二つ目は「革新性」です。新しい商品・サービスや、それを提供するための仕組みを開発したり、活用したりすることで、新しい社会的価値を創出することです。
三つ目は「事業性」です。ビジネスの形に表し、継続的に事業活動を進めていくことです。



私たちの部会は、地域と共に成長する企業を目指しています。現状のビジネスに社会問題を組み込むことで、企業にイノベーションを起こし、「経営をより強く」することが目的です。そしてたくさんある社会問題の中で「空き家をなんとかしたい!」と思ったのが始まりです。その問題解決のために、老朽ビルの再生と、それを利用する新たな起業家をマッチングすることに取り組みました。ビルの再生といってもハード面だけでは、なかなか持続的に活性化しませ

ん。一過性のイベントに終わってしまいます。ですから、ソフト面を充実させることから取り組んでいます。「人と人がつながる」仕組みをつくりたい。そこに「コミュニティ」を作りたいと思つていきます。地域に住んでいる人に要望や不満を聞き、それを解決する方法を考えながら一緒に取り組んでいます。まずは、勉強会を開催し、そこで、出たアイデアとして「モバイルハウス」という移動式の屋台風店舗を作り、新たな起業家に提供し運営していただきました。そして、空きテナントへ入居して新規店舗を持つていただきます。空きビルを活用して起業家を支援して、まちなかに人を集めて活性化していきます。



最後に、部会の今後の展開として次の二つを目指しています。

- ①コミュニティを作っていく
たくさん小さな「コミュニティ」を増やしていく、それぞれがつながりを持つと面白いことに発展していくと思います。農業や福祉とも連携することも可能です。まち全体が変わっていくと思います。まちが活性すると、人も元気になると思います。
- ②「子育て」を軸に活動していく
子供達やお年寄りや障害者など誰もが安心して暮らせる強靱で優しいまちづくりをしていきます。



地域消費者との交流



主な活動目標は、三つを掲げて活動を行っております。

- 一、農家と企業家、地域生活者との交流の場をつくり、積極的に連携を進める。
- 二、農業における経営指針書成文化や付加価値向上などの農業経営を学ぶ。
- 三、食と農を取り巻く環境や情勢、地域の現状を学び地域と企業の発展の方向性を考える。

まだまだ部会設立から歴史は浅いですが、香川県中小企業家同友会と共に歴史を積み重ねていきたいと思っています。